

# 退位特例法案 衆院通過

## 棄権 与野党から

天皇陛下の退位を実現するための特例法案が2日、衆院本会議で採決され、自民、民進、公明、共産、日本維新の会、社民の6党の賛成で可決され、衆院を通過した。法案は国会で成立する見通しで、天皇が終身在位制となった明治以降では初めて退位が実現することになる。

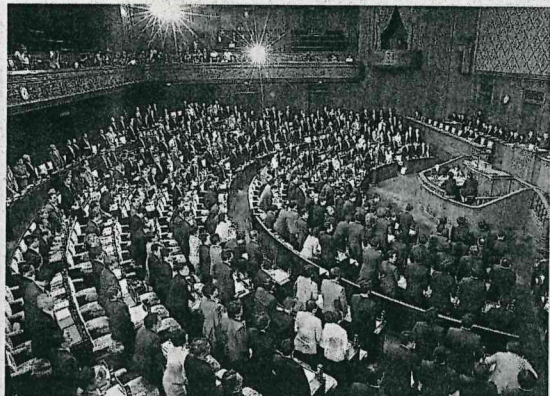
特例法案は、天皇陛下の退位後の称号を「上皇」とすることなど陛下の退位と皇太子さまの即位について定めている。法案をめぐる

### 「御身の上」多く語らず ■「典範改正が筋」

採決では、無所属の亀井静香、上西小百合、武藤貴也の3氏が反対した。法案に賛成する議員が起立するなか、3氏は着席したまま。亀井氏は採決後、「天皇陛下の地位はご自身の意思や国家権力に左右されるものではない。誠に苦労だが

(陛下は)終身その地位にいなければならない」と記者団に反対理由を語った。法案に反対の立場を取る自由党の2氏に加えて、自民党、民進党の少なくとも2人が本会議に出席したものの、採決を棄権した。自民の斎藤健・農林水産

事前の与野党協議で「議論のとりまとめ」にあたった大島理事衆院議長は本会議後、「象徴天皇の永続的な存在を思い、的確な議論をしていただいた」と記者団に語った。政府・与党は「なるべく全会一致がいい」(政府高官)との考えから調整を進めていた。だが、自由党は法案に反対の立場で、本会議の採決に加わらず、無所属の亀井静香、上西小百合、武藤貴也の3氏が反対票を投じた。自民、民進両党からも棄権する議員が出た。菅義偉官房長官は同日の記者会見で、こうした状況についての言及は避け、「参議院における審議でも丁寧の説明し、速やかな法案成立を実現したい」と述べた。法案は、参院では新たに設置した特別委員会で審議され、9日にも成立する見通しだ。(大久保貴裕)



衆院本会議で、天皇陛下の退位を実現する特例法案が可決された。2日午後、岩下毅撮影

#### ■天皇退位特例法案に反対するなどした議員(敬称略)

【反対】 亀井静香、上西小百合、武藤貴也(いずれも無所属)

【棄権】 斎藤健(自民)、阿部知子(民進)、小沢一郎、玉城デニー(以上自由)

【欠席】 谷垣禎一、平沼赳夫、石破茂、金子一義、岸田文雄、河野太郎、関芳弘、田畑毅(以上自民)、高木義明、枝野幸男(以上民進)、中川俊直(無所属)

副大臣は記者団から「賛成できないとの思いがあったのか」と問われ、「そういうことなんですよ」と説明。「事は天皇陛下の御身の上なんで」と繰り返して、多くを語らなかつた。民進の阿部知子氏は記者団に「皇室典範を改正するのが筋だと思ってきた」と主張。「議員立法ではなく内閣提出法案というのも憲法に反している」と話した。

このほか、けがで療養中の自民の谷垣禎一・前幹事長を始め、11人が公務や出張を理由に本会議を欠席した。このうち民進の枝野幸男・前幹事長は議員会館の自室にこもり、記者団に「ノーコメント」と繰り返した。(田嶋慶彦)

日コ共司又各舌効て音旨

が北方四島での共同経済活動に向けてサハリン州側と